

2022 年度年報発行にあたって

公益財団法人泉屋博古館 2022 年度年報をお届けいたします。

泉屋博古館は、住友家が収集した美術品の寄贈を受け、昭和 35 年 (1960) に財団法人として設立、現在、京都東山と東京六本木におきまして、保存、調査研究、公開の各事業をおこなっております。

新型コロナウイルス感染症の流行から 3 年目を迎えた 2022 年は、感染が拡大した時期もございましたが、ウィズコロナの生活様式が模索され始め、文化芸術活動におきましても活動制限が少しずつ緩和されてまいりました。そのようななか、泉屋博古館東京がおよそ 2 年間の改修を終え、2022 年 3 月にリニューアルオープンいたしました。新たに二つの展示室と講堂を加え、より多彩な展覧会と様々な教育普及活動を実施できる体制を整えました。展覧会活動におきましては、リニューアルオープンを記念して 3 次にわたり開館記念特別展を開催し、当館所蔵の名品の数々をご披露いたしました。各展覧会中には、講演会、各種講座、ワークショップなど多彩な教育研修活動も開催することができ、多くの来館者に住友コレクションを介した美術鑑賞の場を提供することができませんでした。

また、東京所管近代工芸品中の白眉である板谷波山作《葆光彩磁珍果文花瓶》(重要文化財)を中心とした波山生誕 150 年記念特別展を、波山の故郷筑西市と共同で企画し、京都と東京両館で開催しました。さらに京都では秋季特別展「木島櫻谷一山水夢中一」開催に併せまして文化庁主催の Innovate MUSEUM 助成事業に参画し、展覧会テーマに即した地域文化交流事業を積極的に推進し、地域の芸術文化観光資源とリンクした美術館活動のあり方を模索いたしました。

このような当館の事業は、来館者、賛助会員の皆様並びに学術関係の方々の厚いご支援により成り立っております。さらに各展覧会をサポートくださいました関係諸機関より多大なご支援を頂戴しましたこと、心より御礼申し上げます。今後も住友グループの文化・社会貢献活動の一翼を担う存在として、多様な美術館活動を展開してまいりたく、引き続きのご支援、ご指導を賜りたく、何卒よろしく願い申し上げます。

公益財団法人 泉屋博古館
理事長 奥 正之



「泉屋博古館東京」リニューアルオープン

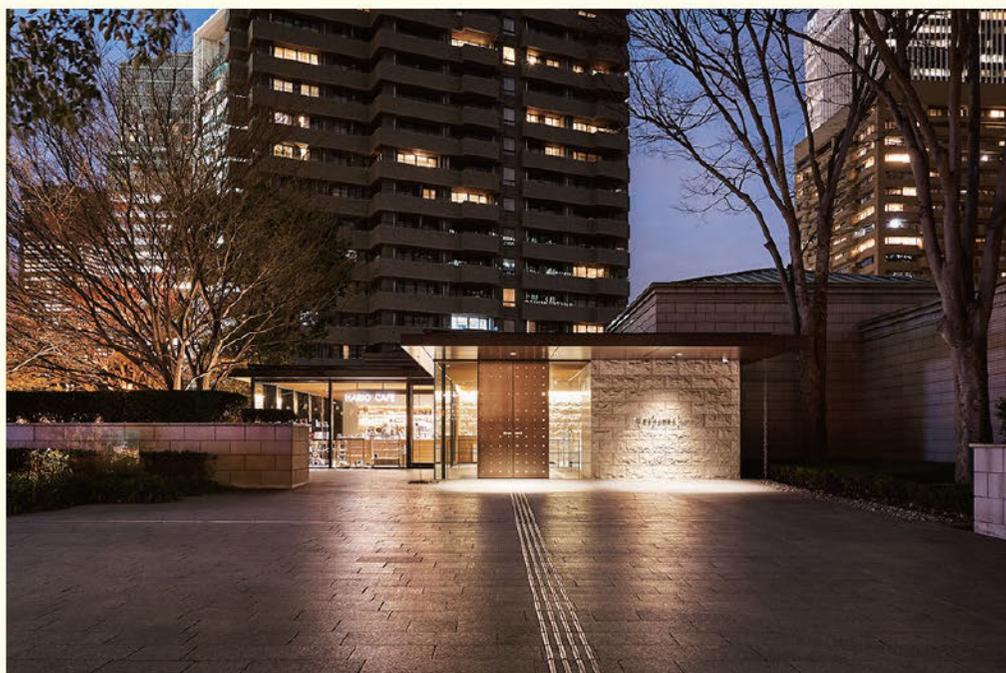
改修工事による長期休館を経て、2022年3月19日に「泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅰ 日本画トライアングル 画家たちの大阪・京都・東京」が開幕し、今年度は187日の開館で過去最多の50,721人の来館者を迎えた。再開にあたり開館時間の見直しを行い、毎週金曜日は午後7時まで、それ以外の日は午後6時までの営業とした。



ホール
象徴展示を配したホールでは一部展示やイベントを開催した。



カフェ
美術館との相互割引などを実施した。



泉屋博古館東京外観

リニューアルオープンに先立つ1月初、コレクションから新春らしい作品を展示し公開した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、報道機関・関係者のみに限った事前公開となった。本展示は無料で閲覧可能な「日経VR」アプリを活用し、展示室360°画像および解説動画、作品画像を多用して広く一般にVR公開した。

(文化庁 文化施設の感染症防止対策事業 補助金対象事業)



関係者事前公開の様子 (画像：読売新聞「美術展ナビ」提供)



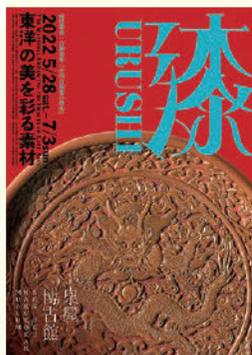
「日経VR」アプリ内画像



公開事業の概要

泉屋博古館（以下「京都」と表示することがある）

展覧会名	期間	入館者数			
		有料	優待	計	1日平均
旅スル絵画 —住友コレクションの文人画	3/26～5/15 (42日間)	2,399	2,824	5,223	124
漆 —東洋の美を彩る素材	5/28～7/3 (32日間)	1,664	2,055	3,719	116
生誕 150 年記念 板谷波山の陶芸 —近代陶芸の巨匠、その麗しき作品と生涯	9/3～10/23 (44日間)	5,207	4,591	9,798	223
木島櫻谷 —山水夢中—	11/3～12/18 (40日間)	6,388	4,436	10,824	271
青銅器館「中国青銅器の時代」	上記企画展 開催期間				
22 年度 京都入館者計	158 日	53% 15,658	47% 13,906	対前年 +5,683 29,564	187



泉屋博古館東京（以下「東京」と表示することがある）

展覧会名	期間	入館者数			
		有料	優待	計	1日平均
リニューアル・プレオープン 木島櫻谷の四季屏風と近代の花鳥図屏風	1/4～1/6 (3日間)		170	170	57
泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅰ 日本画トライアングル —画家たちの大阪・京都・東京	3/19～5/8 (44日間)	7,705	4,469	12,174	277
泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅱ 光陰礼讃—モネからはじまる 住友洋画コレクション	5/21～7/31 (62日間)	12,371	6,398	18,769	303
泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅲ 古美術逍遙 —東洋へのまなざし	9/10～10/23 (38日間)	6,087	3,305	9,392	247
生誕150年記念 板谷波山の陶芸 —近代陶芸の巨匠、その麗しき作品と生涯	11/3～12/18 (40日間)	6,559	3,657	10,216	255
22年度 東京入館者計	187日	65% 32,722	35% 17,999	50,721	271



入館者京都・東京合計 有料 48,380名 優待 31,905名 計 80,285名

中国青銅器の時代

会期：企画展覧会と同時開催

当館を代表する中国殷周時代の祭祀用青銅器を、名品選、青銅器の種類、中国古代の説話と文様、青銅文化の展開の4テーマで紹介した。また3月26日から5月15日まで、第4展示室コーナーで漢代漆器2点を特別展示した。

【第1展示室】

青銅器名品選 いにしへの造形美

住友コレクションのなかでも選りすぐりの名品を展示し、中国青銅文化の精華を示す。



【第2展示室】

青銅器の種類・用途 豪華な道具たち

殷周時代に生み出された様々な青銅器の種類に着目し、その機能や多様性をわかりやすく紹介する。



【第3展示室】

中国古代の説話と文様

中国青銅器や銅鏡にあらわれるモチーフと、その背景となった古代の説話を紹介する展示。



【第4展示室】

青銅文化の展開

銅鏡や中国中近世の銅器を中心に展示し、漢代以降の青銅文化の展開をあとづける。



関連催事

- ・青銅器講座（京都講堂） * 11 頁参照
7月2日（39名）「中国古代における鳥の造形—その機能と神話」
小南一郎（名誉館長）
- ・学芸員のスライドトーク（京都講堂） * 13 頁参照
9月23日（39名）「近代工芸もうひとつの源流 —中国古代青銅器の造形と紋様—」
山本 堯（学芸員（京都））

コーナー展示 モンゴル匈奴墓出土 漢代紀年漆器

会期：3月26日～5月15日

住友財団海外文化財維持修復助成事業によりよみがえったモンゴル匈奴墓出土の漢代の紀年漆器「耳杯」「旋」2点のお披露目を兼ねて展示。展示終了後はモンゴル国へ返還された。（住友財団2021年度その他助成対象事業）



展示解説パンフレットを
5,000部制作、無料配布した。



関連催事

- ・特別講座（京都講堂）4月9日（32名）
《蘇る漆器》
—モンゴル出土漢代漆器の保存修復—
「モンゴル国の匈奴の遺跡」
大谷育恵氏（京都大学白眉センター特定助教）
「漢代の漆器を保存修復する」
岡田文男氏（京都芸術大学客員教授）

住友財団文化財維持修復助成作品の修復完了を記念した特別講座。漆器が出土した匈奴墓の概要と、状態の劣悪な出土漆器の修復技術をわかりやすく紹介した。



講演会（上：大谷氏、下：岡田氏）

企画展 旅スル絵画 ー住友コレクションの文人画

会期：3月26日ー5月15日

館蔵江戸後期文人画より、文人にとって重要な営みであった旅に関わる作品を紹介。「絵の中を旅する」「画家が旅する」「絵画が旅する」「異国の画家が旅する」の四章で構成、江戸後期から幕末の上方の文人たちの活発な移動と交流から生まれた書画作品や鑑賞していたであろう中国画を陳列した。ことに周之夔《溪澗松濤図》の旧蔵者で江戸後期を代表する中国書画鑑蔵家、文人画家日根対山の支援者でもあった泉佐野の里井浮丘関係資料を借用し、当時の中国画鑑賞の実態を浮き彫りにした。

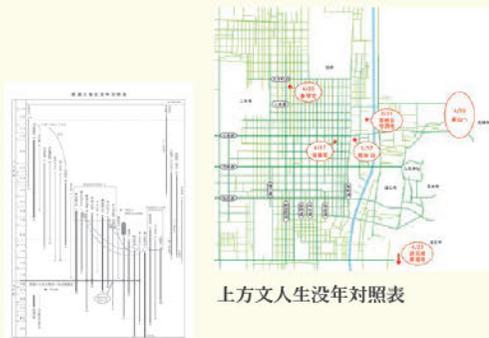
昨年寄贈された三浦梧門《山水図》全16面も一挙初公開した。(主催：公益財団法人泉屋博古館、京都新聞)



展示風景



上方文人たちの生没年対照表や、天保15年9月の里井浮丘上洛の際の足跡地図、その間に開催された中国書画会の説明などを作成、掲示や配布で理解を促した。



上方文人生没年対照表



里井浮丘に関連する資料はゆかりの地である泉佐野市の歴史館などから借用して展示。

里井浮丘上洛の際の足跡地図

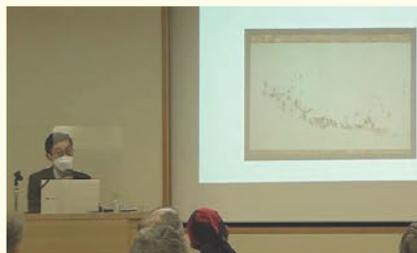
関連催事

・スペシャルトーク（京都講堂）

4月17日（33名）『『サロン！展』からみた住友コレクションの文人画』

平井啓修氏（京都国立近代美術館主任研究員）

当館の江戸後期の京・大坂画壇について、相互引連携先の京都国立近代美術館にて開催中の展覧会「サロン！展」と比較しながら解説、ことに大坂文人画壇の魅力について紹介した。



スペシャルトーク（平井氏）

4月30日（34名）

「文人と泉南—京・大坂との往来」

富田博之氏（南泉州史遊会
・泉佐野市立歴史館いずみさの元学芸員）

江戸後期に中国書画取集家・画家のパトロンとして知られた泉佐野の里井浮丘らの活動から、上方文人のネットワークと文化を紹介。



スペシャルトーク（富田氏）

・作品解説（京都講堂）

4月6日（26名）

5月7日（47名）

実方葉子（学芸部長）



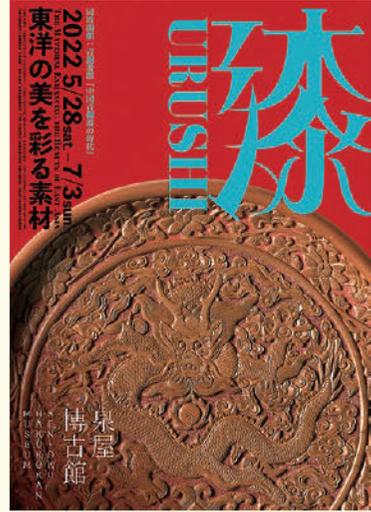
作品解説（実方）

企画展 漆 — 東洋の美を彩る素材

会期：5月28日 - 7月3日

アジアの人々が発見し、地域ごとに独自の技法が磨き抜かれてきた素材、漆。中国、朝鮮、日本で育まれた多彩な漆工品について、技法とともに紹介。併せて、ふたつの堆黄盆の修復完了を記念し、お披露目を兼ね最新の修復技術とともに紹介した。

(主催：公益財団法人泉屋博古館、京都新聞)



修復解説パネル（左）と技法解説（右）

展示風景





関連催事

・ URUSHI トーク (京都講堂)

6月4日 (38名)

「漆工品をめぐる修復技術」

室瀬智弥氏・鷺野谷一平氏

(目白漆芸文化財研究所)

当館所蔵の堆黄盆を例に、漆芸の最新の修理現場の様子を伝えると同時に、漆そのものの魅力を、修理技術者兼漆芸作家であるお二人にご講演いただいた。



URUSHI トーク (室瀬氏・鷺野谷氏)

6月25日 (43名)

「近代数寄者たちの漆のある暮らし」

田淵可葉氏 (中之島香雪美術館学芸員)

森下愛子 (学芸員 (東京))

聞き手：竹嶋康平 (学芸員 (京都))

関西に集積する漆芸コレクションには一定の共通趣味があるのではないかという疑問を出発点に、上方を代表する数寄者・村山龍平と住友春翠コレクションを対談形式で比較した。その結果、共通点と両者の個性が浮かび上がった。



URUSHI トーク (田淵氏・森下)

・ 青銅器講座 (京都講堂)

7月2日 (39名)

「中国古代における鳥の造形—その機能と神話」

小南一郎 (名誉館長)

玉器・彩陶・青銅器などから古代の多彩な鳥類表現を紹介、その造形的特徴や文学的背景について講演。



青銅器講座 (小南)

特別展 生誕 150 年記念 板谷波山の陶芸 —近代陶芸の巨匠、その麗しき作品と生涯

会期：9月3日 - 10月23日

近代陶芸の巨匠・板谷波山の生誕 150 年を記念し、代表作品のみならず、波山自ら割った陶片や資料などから、波山の人柄や人生に焦点をあてて紹介した。

(主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社、京都新聞)



展示風景

波山が影響を受けたと考えられる青銅器とのコラボ展示は京都会場ならではの演出であった。



関連催事

・講演会（京都講堂）

9月3日（41名）

「板谷波山の陶芸一麗しき作品と生涯」

荒川正明氏（監修者・学習院大学教授）

板谷波山研究の第一人者として、波山の作品と制作の背景、生涯についてご講演いただいた。



講演会（荒川氏）

10月10日（40名）

「陶芸家・波山誕生：金沢時代を語る」

荒川正明氏

濱岸勝義氏（石川県立工業高等学校）

波山が教鞭をとった旧石川県工業学校（現・石川県立工業高等学校）の濱岸氏と、荒川氏による、波山の金沢時代を振り返る対談。



講演会（濱岸氏・荒川氏）

・学芸員のスライドトーク

9月23日（39名）

「近代工芸もうひとつの源流

—中国古代理青銅器の造形と紋様—

山本 堯（学芸員（京都））



スライドトーク（山本）

10月9日（34名）

「コレクター・住友春翠と板谷波山」

森下愛子（学芸員（東京））



スライドトーク（森下）

巡回展『生誕150年記念 板谷波山の陶芸』公式図録発行（2022年キュレーターズ）。

11月より開催の東京館開催時と共通（25頁参照）。

特別展 木島櫻谷 ー山水夢中ー

会期：11月3日 - 12月18日

木島櫻谷が生涯描き続けた山水画に注目、膨大な風景写生とともに、近代的風景から文人的山水まで、诗情豊かな理想世界をたどった。南陽院・櫻谷文庫・宮協賣扇庵と連携公開した。文化庁 Innovate MUSEUM 助成にて関連イベント実施。(主催：公益財団法人泉屋博古館、

公益財団法人櫻谷文庫、京都新聞、BSフジ、ライブエグザム)

写生帖の展示



展示風景



展覧会に併せて図録『木島櫻谷 ー山水夢中ー』を4,000部刊行した。写生帖《雲峰集三》の縮刷版を挟み込み、櫻谷の写生の跡を追体験いただく試みも行った。

南陽院《木島櫻谷 山水障壁画》特別公開（公開事業：ライブエグザム）

本展に併せ、館外会場として櫻谷山水画の代表作・山水障壁画を擁する南禅寺塔頭南陽院を特別公開いただいた。櫻谷作品としてはじめて公表される機会として、9月に事前報道説明会も開催した。



南陽院本堂



事前報道説明会の様子

関連催事

・講演会（京都講堂）

11月12日（42名）

「木島櫻谷の生涯と山水画」

実方葉子（学芸部長）

櫻谷の画歴を俯瞰しつつ、写生旅行の実態や、
作品制作におよぼす写生の役割などを紹介。



講演会（実方）

・オウコク・トーク！

11月16日（43名）

椎野晃史（学芸員（東京））

12月1日（39名）

実方葉子

12月10日（41名）

野地耕一郎（東京館長）



オウコク・トーク！（椎野）



オウコク・トーク！（実方）



オウコク・トーク！（野地）

文化庁 Innovate MUSEUM 助成事業

博物館資料のデジタル・アーカイブ化とその公開を推進し、地域社会との組織連携・ネットワークの形成を通して、博物館の機能強化の推進を図る文化庁主催の Innovate MUSEUM 事業に参加。

・記念講演会（京都講堂）

11月27日（41名）

「櫻谷の再評価—その広がりや深まり—」

田島達也氏（京都市立芸術大学教授）

近世近代京都画壇の中での櫻谷の位置づけを行い、今日的な櫻谷画の意義を講演。



講演会（田島氏）

・現地見学会

11月11日（20名）（会場：南陽院本堂）

「南陽院障壁画鑑賞会」

奥村美佳氏（京都市立芸術大学准教授・日本画家）

櫻谷の青年期山水画の集大成である障壁画について、日本画家の視点からの解説をうかがい、自然環境・庭園とともにある寺院障壁画の魅力に触れた。



南陽院障壁画鑑賞会（奥村氏、実方）

11月18日（10名）（会場：宮脇賣扇庵）

「櫻谷ゆかりの扇老舗を訪ねる」

小林 聡氏（宮脇賣扇庵京都本店店長）

明治の日本画家の天井画や櫻谷の扇面画を鑑賞しつつ、日本画に縁深い扇子について学んだ。投扇興を体験、古来の広がりある扇文化に触れた。



宮脇賣扇庵見学、投扇興体験（小林氏、実方）

・現地講演会

11月23日（27名）（会場：櫻谷文庫画室）

「木島櫻谷写生帖の修理—中間報告—」

吉田裕志氏（有限会社墨仙堂）

22年度前期に修理を実施した櫻谷明治期写生帖について、その修理過程や明らかになった使用実態など、修復技術者が講演。あわせて写生帖を見学。



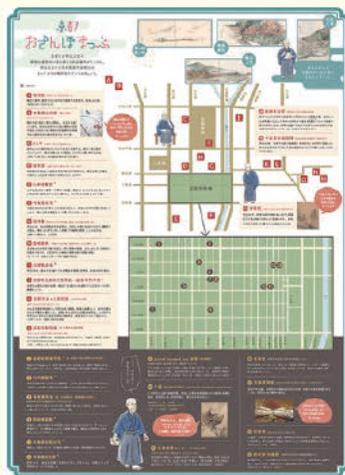
櫻谷文庫にて
写生帖修理講演（左：吉田氏）と
見学会（右）

・「木島櫻谷ゆかりの地をめぐる 京都お散歩マップ」制作、配布

10,000部作成、会期中に館内および近隣の美術館や関連の施設で配布した。



外面



中面

・オンライン／オフライン自由参加型イベント

10月～23年1月

「おうこく足跡探訪～木島櫻谷がみた京都の風景」

櫻谷による京都郊外の写生画から写生地を各自で探索し写真を投稿いただく企画。SNS・メール等にて数十件の情報が寄せられ、櫻谷の写生実態に迫るとともに京都の景観の魅力の再発見につながった。



アイコン（上）と投稿内容公開画面（下）



ホームページで告知

・障壁画、写生帖のデジタルアーカイブ構築・公開準備

南陽院障壁画・および木島櫻谷写生帖（櫻谷文庫蔵）のデジタル撮影を行い、展示解説に活用。

目下、写生帖データベースの2023年3月公開にむけ遂行中。

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展 I

日本画トライアングル —画家たちの大阪・京都・東京

会期：3月19日 - 5月8日

大阪、京都、東京の各画壇で活躍した日本画家たちの知られざる作品を展観し、地域に根ざした日本画の魅力とその多様性を紹介した。(主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社)



展示風景



泉屋博古館東京リニューアルに併せ名品選を刷新。『泉屋博古館 名品選 99』として青幻舎より刊行、3,000部買取。



関連催事

・スライドレクチャー（東京講堂）

「詳しくすぎる作品解説」3月26日（32名）

「上島鳳山《十二ヶ月美人》徹底鑑賞」

田所 泰氏（実践女子大学香雪記念資料館学芸員）
古川 咲氏（共立女子大学大学院博士後期課程）
野地耕一郎（東京館長）
椎野晃史（学芸員（東京））

上島鳳山《十二ヶ月美人》を美人画・染織・近代
絵画の研究者がそれぞれの分野の視点から
スライドを用いて解説。



スライドレクチャー（古川氏、田所氏、野地、椎野）

・連続講演《アート With》（東京講堂）

4月15日（36名）

「日本絵画の修復」半田昌規氏

（国宝修理装演師連盟副理事長、半田九清堂代表取締役社長）

東京館所蔵の橋本雅邦《深山猛虎図》の修復を
手掛けられた半田昌規氏による、日本絵画の修復
についての講演。



連続講演（半田氏）

・座談会（東京講堂）

4月29日（39名）

「トライアングル・トーク 大阪・京都・東京の日本画」

橋爪節也氏（大阪大学総合学術博物館教授）
中野慎之氏（文化庁文化財第一課絵画部門文化財調査官）
野地耕一郎、椎野晃史

大阪・京都・東京の各地域の日本画について各画壇の
専門家が集い、都市と絵画の関係性を語り合う座談会。



トライアングル・トーク（中野氏、橋爪氏、野地、椎野）

・スペシャル対談（東京講堂）

4月9日（34名）、23日（54名）

野地耕一郎、椎野晃史

※当初はギャラリートークを予定していたが、
コロナ感染の状況を鑑み、講堂を使用した対談に変更した。

・スライドトーク（東京講堂） 椎野晃史

3月20日（30名）、3月21日（38名）、3月27日（22名）
4月3日（25名）、4月10日（33名）、4月17日（33名）
4月24日（20名）、5月1日（44名）、5月8日（42名）



スペシャル対談（野地・椎野）



スライドトーク（椎野）

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅱ

光陰礼讃 ーモネからはじまる住友洋画コレクション

会期：5月21日ー7月31日

館蔵品から、光を追い求めた印象派と、陰影による実在感を追求した写実派の「光陰」二つの流れから滋養を受けて展開した、近代洋画の数々を紹介した。

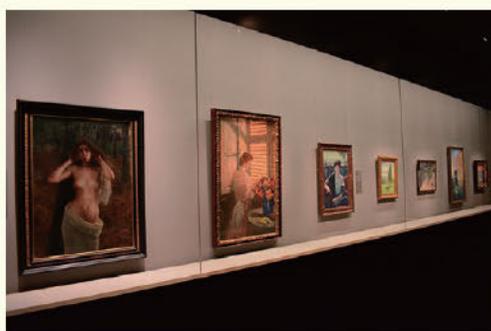
第四展示室では住友家須磨別邸の建築とその設計思想を設計者の野口孫市に光をあて紹介し、実際に飾られた

絵画を展示した。

(主催：公益財団法人泉屋博古館、
日本経済新聞社)



展示風景



関連催事

・特別講演会（東京講堂）

7月16日（42名）

「知られざる蒐集 — 住友洋画コレクションの特質」

三浦 篤氏

（東京大学総合文化研究科教授、美術史家）

住友の洋画コレクションの特質について紹介。



講演会（三浦氏）

・スライドレクチャー（東京講堂）

「詳しくすぎる作品解説」

5月27日（20名）、6月3日（20名）

6月10日（25名）、6月17日（25名）

6月24日（34名）、7月1日（26名）

7月8日（35名）、7月15日（24名）

7月22日（52名）、7月29日（50名）

野地耕一郎（東京館長）



スライドレクチャー（野地）

*当初6月24日に開催を予定していた林和久氏（工学博士）の特別講演会「住友春翠と建築家・野口孫市たち」は都合により中止となり、スライドトーク「須磨別邸と洋画コレクション」に変更して開催した。



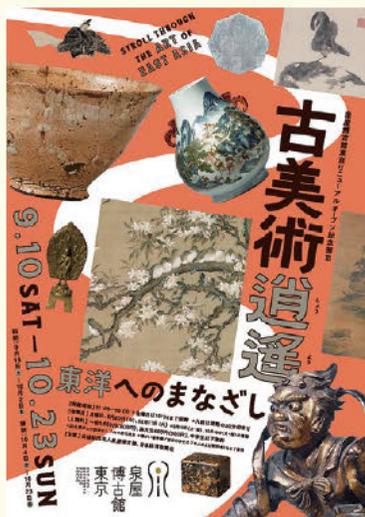
展覧会に併せ館蔵品図録『泉屋博古 近代洋画・彫刻』を2,000部刊行した。

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅲ

古美術逍遙 ー東洋へのまなざし

会期：9月10日ー10月23日

館蔵品のうち、古代から近世までの東洋美術の名品を一挙に展観。住友コレクションの中で継承されてきた美を紹介し、当館館蔵品の多様性と魅力を伝えた。また第四展示室では、住友コレクションの蒐集のきっかけとなった文人趣味と煎茶文化を紹介した（監修：佃一輝氏 一茶庵宗家）。
（主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社）



展示風景



関連催事

- ・スライドトーク（東京講堂）
9月23日（45名）、10月24日（43名）
竹嶋康平（学芸員（京都））



スライドトーク（竹嶋）

・連続講演《アート With》(東京講堂)

9月16日(24名)

「展示ケースのツボ」

山内佳弘氏(展示ケース設計工房山内 代表社員)

美術館における「良い展示ケース」について
東京館リニューアルの実例を中心に紹介。



アート With (山内氏)

・記念煎茶会(東京講堂)

9月19日(29名)

「もういちど、はじまりを」

佃一輝氏(一茶庵宗家)

佃梓央氏(一茶庵宗家嫡承)

島尾新氏(学習院大学文学部教授)

新恵美佐子氏(画家)

野地耕一郎(東京館長)、竹嶋康平

展示室に並ぶ中国書画たちを大型スクリーンに
映し出し、対話を重ねる、現代版の煎茶会。



記念煎茶会(佃一輝氏・梓央氏、島尾氏、新恵氏ほか)

・特別講座(東京講堂)

「香りを聞く」10月1日(40名)

山田悠介氏(麻布 香雅堂 代表取締役社長)

展示されている香木や香道具の楽しみ方、香りの
文化についてスライド解説と体験も交えて学ぶ講座。



特別講座(山田氏)

・「ミュージアムコンサート」(東京ホール)

10月6日(25名)

岩城里江子氏(アコーディオン奏者)

藤田朱美氏(ダンサー)

ホールにてアコーディオンのコンサートを実施。
ARK Hills Music Week 2022 参加。



ミュージアムコンサート(岩城氏、藤田氏)

・記念講演会「八大山人と禅画」(東京講堂)

10月9日(45名)

塚本鷹充氏(東京大学東洋文化研究所 教授)

住友コレクション中国絵画でもとりわけ有名な
二人の画家一石濤と八大山人。画家たちとその
作品の魅力を解説。



記念講演会(塚本氏)

特別展 生誕 150 年記念 板谷波山の陶芸 ー近代陶芸の巨匠、その麗しき作品と生涯

会期：11月3日 - 12月18日

東京会場では、最初期の木彫作品から大正時代の名作をゆったり展示すると共に住友春翠の波山コレクション、波山が自ら割った陶片や資料などから、波山の人柄や人生に焦点をあて紹介した。(主催：公益財団法人泉屋博物館、日本経済新聞社)



展示風景



東京講堂では「東陶会映画

板谷波山先生寿齢八十年
記念(昭和28年撮影)」

にて、板谷波山の貴重な
生前の姿を紹介した。また
4Kで撮影した「板谷波山
泉屋博物館東京の名品」
(NHK エデュケーショナル
制作)も併せて紹介した。



関連催事

・特別対談

11月5日（43名）

「板谷波山を語る一麗しき作品と生涯」

板谷駿一氏（公益財団法人波山先生記念会理事長）

荒川正明氏（監修者・学習院大学教授）

公益財団法人波山先生記念会理事長の板谷駿一氏と、
板谷波山研究の第一人者である荒川正明氏による、
波山の人柄とその作品の魅力に迫る対談。



特別対談（荒川氏、板谷氏）

・講演会

11月27日（40名）

「明治のデザインと板谷波山」

森谷美保氏（美術史家）

近代のデザイン史からみる板谷波山の意匠の特徴に
ついて展示作品の詳しい紹介も含めて解説。



講演会（森谷氏）

・連続講演《アート With》

12月2日（40名）

「陶磁器の修復」

蘭山浩司氏（美術古陶磁修復元師）

板谷波山作品をはじめ様々な陶磁器の修復を手掛ける
蘭山浩司氏による、陶磁器の修復についての講演。



アート With（蘭山氏）

・スライドトーク

11月10日（43名）、11月12日（43名）、

11月24日（46名）、12月3日（49名）

森下愛子



スライドトーク（森下）



巡回展『生誕150年記念 板谷波山の陶芸』公式図録（2022年キュレーターズ発行）。
（著者のひとりとして森下愛子（学芸員（東京））が執筆）

2022年度の主な調査研究事業

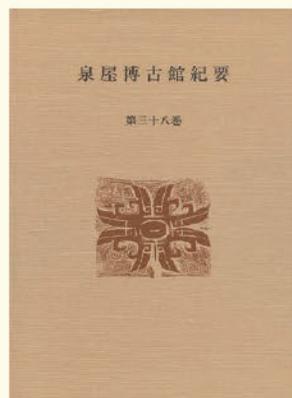
1. 泉屋博古館紀要の執筆・編集

『泉屋博古館紀要』第38巻の執筆と編集作業を行った
(2023年1月刊行)。

小南一郎(名誉館長)論文、

山本堯(学芸員(京都))、樋口陽介氏・新郷英弘氏(芦屋
釜の里)、内田純子氏(中央研究院歴史語言研究所)論文、

野地耕一郎(東京館長)論文の合計3編を掲載。



『泉屋博古館紀要』第38巻

2. 館藏品基礎調査研究

「茶道具の調査研究」(森下)

新収品を中心に、①付属品の再調査、②購入記録並びに茶会記との照合を行い、江戸期から大正期に至る茶道具のコレクション形成史をまとめた。江戸期の歴代当主ゆかりの茶道具を中心に調査を行った。

「近代工芸作品の調査研究」(森下)

板谷波山の《葆光彩磁珍果文花瓶》(重要文化財・東京所蔵)完成に至る過程(技法、釉薬、意匠)について調査研究を行い、「生誕150年記念 板谷波山の陶芸」で成果を報告。陶芸家としての基礎を築いた石川県時代の個人所蔵の波山作品、田端で発掘された陶片作品について調査し、それを踏まえ会期中に石川県工業高等学校の方を招き、対談を実施した。



対談の様子

「コレクション形成における近代煎茶文化の影響に関する基礎的研究」(竹嶋)

3年目となる2022年度は、茶会記に登場する日本書画のデータベース化を実施した。近隣の茶会記所蔵館での調査も予定。

「館蔵印材の基礎研究」(竹嶋)

館蔵印材の中には、他の館蔵品(書画・工芸)に捺されているものがある。その情報を集積し、制作時期の判定およびコレクション形成史の検討に役立てる。

「泉屋博古館記録資料のアーカイブ化」(竹嶋)

館の歴史を物語る設立以来の資料の整理に着手。本年は過去の講演会記録など映像資料のデジタル化を実施した。



第一回講演会(故 樋口隆康館長(当時) 講演)

「館蔵書画の表装裂のデータベース作成」(実方)

館蔵書画に用いられる表装裂について、資料写真撮影を進めた。住友家出入りの表具師井口古今堂の関連資料を受託、調査を行った。



表装の撮影

「館蔵洋画の調査研究」(野地)

館蔵洋画・彫刻に関しては、河久保正名や仙波均平など、優品が収蔵されながら見落とされてきた作家・作品が散見される。また岸田劉生など近年の研究成果を踏まえ多視点からの見直しを推進した。河久保作品につき調査成果を『泉屋博古館紀要』第38巻に執筆した。



「泉屋博古館紀要」第38巻に掲載の論文

「館蔵日本画及び洋画の基礎研究」(椎野)

館蔵の日本画及び洋画に関して、昨年に引き続き同時代資料の収集を行い、展覧会出品歴等の基礎情報を確認した。特に日本画の地域性に注目し、その成果を「日本画トライアングル」展として展観した。

「美術品収集経緯研究」(全員)

継続実施している明治大正期住友家美術品収集経緯の研究について、本年度は購入台帳の翻刻と内容検討を昭和17年まで進めた。

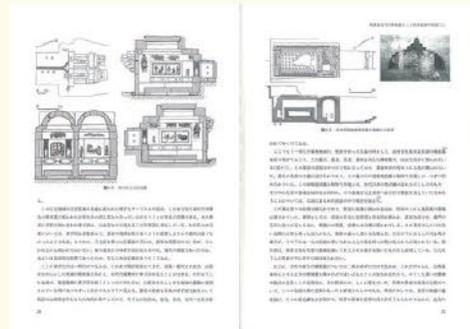
3. 専門研究(館蔵品関連分野)

「中国先秦時代の社会と文化」(小南)

中国先秦時期(二里頭文化から秦漢帝國の成立まで)の社会制度や思想文化について、主として出土文物を資料としてその中国的特質の形成について検討継続。

「中国近世の文芸と民衆信仰」(小南)

中国近世の民衆文芸について、文献資料と実地調査とにもとづき、庶民信仰と生活倫理のありかたを探求する。今年度は壁画墓の画像を通して二十四孝観念の時代的な変貌を追求、中国近世倫理の形成について『泉屋博古館紀要』第38巻に執筆。



『泉屋博古館紀要』第38巻に掲載の論文

「春秋戦国時代青銅器の生産と流通に関する複合的研究」(山本)

華北・華中地域それぞれにおける青銅器生産・流通の様相、およびその歴史的背景について考察を行った。以上の成果は紀要のほか、『考古学雑誌』『東洋史研究』など学術雑誌において論文として公刊した。



復元鑄造品

4. 他研究機関との共同調査研究

「木鳥櫻谷の調査研究」(実方)

今年度は櫻谷文庫所蔵資料のうち、山水表現について、写生やマクリ、旧蔵の中国山水画などを同文庫と共同で調査分析、他機関の関連作品調査とともに成果を展覧会・図録にまとめた。また山水写生帖のデータベース化を進めたほか、概説書を執筆した(東京美術)。



スキャニングの様子

「中国古代青銅器製作技術の研究」(廣川(館長)・山本)

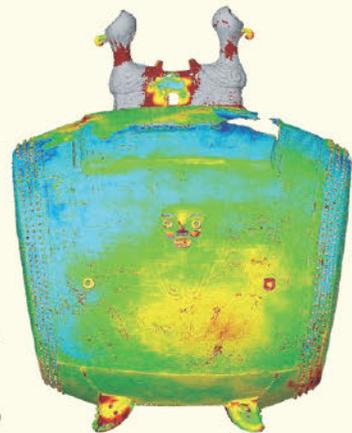
当館所蔵青銅器及び中華民国国立中央研究院歴史語言研究所所蔵青銅器及び鋳型を調査対象として、殷代から戦国時代にかけての青銅彝器製作技術の解明を目的とした研究(実物の考古学的調査および三次元計測と、それをもとにした鋳造実験)を、歴史語言研究所、芦屋釜の里と共同で実施。今年度は青銅爵の鋳造実験を実施し、その工程を動画にて記録した。

「中国青銅器の高精度三次元計測データの解析」(廣川)

富山大学芸術学部と共同で実施している当館青銅器の高精度三次元デジタル計測調査により取得したデータについて、断面形状および全体厚偏差分布の解析を実施。その成果の一部である《夔神鼓》の解析報告をアジア鋳造技術史学会誌『FUSUS』に発表した。

(富山大学芸術文化学部科研課題 JP16H01918、JP21H00494 の分担研究)

《夔神鼓》側面厚み分布図(研究代表者三船温尚氏作製)



「日本茶道文化史における中国金工品の受容と展開」(山本)

茶道資料館・芦屋釜の里との共同調査研究。今年度は相国寺、徳川美術館、野村美術館において調査を実施し、いわゆる唐物の花入として用いられる胡銅に製作技術の差異が見られることを確認した。

(研究助成金申請検討中(2021年度より三者協定締結))

「古代東アジアの祥瑞と王権—漢～唐代成立の瑞獣画像をめぐる学際的研究—」(山本)

今年度は研究成果の一部として、早稲田大学
會津八一記念博物館にて『古代中国の神話と祥瑞』
展を共催し、展覧会図録を刊行した。
(二松学舎大学研究代表科研課題 JP22H00620 の
分担研究)



研究会の様子

「図像・出土器物・文献資料による古代東アジアにおける饗宴システムの復元と比較研究」(山本)

古代東アジアの国家形成と密接な関係性をもつ饗宴システムの成立・展開過程について、
中国・朝鮮半島・日本列島を比較しつつ分析を行った。今年度は中国漢代の飲食儀礼をテー
マとして研究会を開催した。
(大手前大学研究代表科研課題 JP22H00729 の分担研究)

「近代染織史の基礎資料研究」(森下)

館蔵の染織作品を基本資料として、近代の染織品における様式変遷ならびに技法を比較し
た。東京文化財研究所無形文化遺産部と共同研究を行った。2021年に開催した「[伝統技術]
の伝承に関する研究会IV「型紙と型染」の報告書をまとめ、2023年に刊行。

「展覧会芸術研究」(椎野)

近代日本画における主題選択や表現様式を変容させた展覧会の制度に注目し、同時代資料
から「展覧会芸術」という言葉の使用範囲と用法を探った。

2022年度の美術品収集

1. 美術品受贈

以下6点の作品を受贈した。

- 《青海波透かし文水盤 銘嶺雲鑄》 尾科嶺雲
《龍肩雲透かし文三ツ足薄端 銘峯雲》 加納峯雲
《龍文末広口花瓶 銘松園》 初代須賀松園
《波千鳥象嵌壺 銘紫龍》
《鬼獸耳相華帯地水盤 銘月眞叟松園》 初代須賀松園
(大郷理明様ご寄贈)



《青海波透かし文水盤 銘嶺雲鑄》 尾科嶺雲



《龍肩雲透かし文三ツ足薄端 銘峯雲》 加納峯雲

- 《絵踏》 尾竹国観 明治41(1908)年
(尾竹国矢様ご寄贈)



《絵踏》 尾竹国観 明治41(1908)年



《人物図》 尾竹国観 明治時代

2. 美術品購入

下記1点の作品を購入した。

- 《人物図》 尾竹国観 明治時代

2022年度の美術品修復

1. 仏教美術

・重要文化財《木彫阿彌陀如来坐像》

本作は院政期の基準作として価値が知られているが、近代の修理箇所の損朽が激しく、館内での移動もままならない状況。修理の上で公開機会を確保する。

(2022年開始～23年3月完了予定。国庫・住友財団助成)(総額2,276千円)



(修復前) 石膏の劣化



(修復前) 手首柄のゆるみ



(修復前) 過去の修復箇所の劣化

2. 青銅器

・《三犧首亀文尊》 現状調査

青銅器修復専門業者に依頼し、状態確認調査を実施、進行性錆を確認した。緊急性の高いものから順に脱錆・防錆処理の実施の計画をまとめ、本年度は2点を実施した。(431千円)



《三犧首亀文尊》(修復前)

3. 茶道具

・《瀬戸肩衝茶入 銘 真如堂》挽家袋

表裂に傷みがあり、裏地も劣化が酷いため、裂地の補強、つがり・緒を交換するなどの修復を行った。(200 千円)



《瀬戸肩衝茶入 銘 真如堂》挽家袋 (修復前)



《瀬戸肩衝茶入 銘 真如堂》挽家袋 (修復後)

・《黄天目 銘 鶯》天目袋・天目台袋

《黄天目 銘 鶯》の天目袋ならびに天目台袋について、ともに表裂に傷みがあり、裏地も劣化が酷いため、緞子で裏地を仕立て、つがりを元の色と同色に染めて作成した。(400 千円)。



《黄天目 銘 鶯》の天目袋 (修復前)



《黄天目 銘 鶯》の天目袋 (修復後)



《黄天目 銘 鶯》の天目台袋 (修復前)



《黄天目 銘 鶯》の天目台袋 (修復後)

4. 絵画

・都鳥英喜《菊》

画面クリーニングならびに絵具の浮きを接着し、絵具の剥落部分に充填剤を充填し、周囲の筆触に合わせて整形後、修復用絵具で補彩した。また低反射アクリルや裏板を新たに取り付けた。(499 千円)



都鳥英喜《菊》(修復後)

5. その他

・《朱泥四方急須》仕覆

鉄媒染による木綿地の劣化が進行して数箇所が文様ごとやけ落ち、内部の綿が露出。展示効果も高い上質なインド更紗地であるため、劣化の進行速度を緩めるべく修復を行った。(250 千円)

・燻蒸、掛軸掛緒・軸先小修繕他 (306 千円)

2022年度の収蔵品貸出

沈南蘋《雪中遊兔図》、西山完璞《浪華名所画帖》、丹羽桃溪・太田蜀山人《別子銅山図》（すべて京都）

「サロン！雅と俗—京の大家と知られざる大坂画壇」（京都国立近代美術館：2022年3月23日～5月8日）

国宝《線刻仏諸尊鏡像》（京都）

伝教大師1200年大遠忌記念特別展「最澄と天台宗のすべて」（京都国立博物館：2022年4月12日～5月22日〔展覧会は東博、九博、京博の巡回。出陳は京博のみ。〕）

板谷波山 重要文化財《葆光彩磁珍果文花瓶》、《葆光彩磁葡萄唐草文花瓶》、《彩磁更紗花鳥文花瓶》、《茶袖花下対禽彫文花瓶》、《褐袖八つ手葉彫花瓶》、《葆光彩磁細口花瓶》、板谷玉蘭《彩磁山葡萄唐草文花瓶》（すべて東京）

特別展「生誕150年記念 板谷波山の陶芸—近代陶芸の巨匠、その麗しき作品と生涯」
（しもだて美術館：2022年4月16日～6月19日、石川県立美術館：2022年6月25日～7月24日、
泉屋博古館：2022年9月3日～10月23日、泉屋博古館東京：11月3日～12月18日
茨城県陶芸美術館：2023年1月2日～2月26日〔重文作品はしもだて美術館～泉屋博古館東京の4会場〕）

森寛齋《羅浮仙人図》、望月玉泉《芦雁図》、初代宮川香山《紅海鼠釉花瓶》、三代清風與平《青磁瓜に虫彫文花瓶》（すべて東京）

「綺羅きらめく京の明治美術—世界が驚いた帝室技芸員の神業」（京都市京セラ美術館：2022年7月23日～9月19日）

《武蔵野蒔絵面筆筒》、《紅萌黄卍繫桜花薔薇蝶薄模様唐織》（東京）

国立能楽堂企画展「秋の風—能楽と日本美術—」（国立能楽堂1階資料展示室：2022年8月25日～10月21日）

《寿山石 白芙蓉印顆 鈕玉取獅子》2顆、《青田石印顆 鈕眠猫》1顆、《青田石燈光凍印材 鈕山形》1顆（附属紫檀銀象嵌印材台1基）、《太湖石》1点（すべて京都）

「玉石の美—人びとを魅了した石の工芸—」（和泉市久保惣記念美術館：2022年9月18日～11月13日）

《古銅象耳花入 銘 キネナリ》、《小井戸茶碗 銘 六地藏》、《黄天目 銘 鷺》、《紅葉呉器茶碗》（すべて東京）

特別展「京（みやこ）に生きる文化 茶の湯」（京都国立博物館：2022年10月8日～12月4日）

《伊勢物語図屏風》（京都）

特別展「伊勢物語—絵になる男の一代記」（中之島香雪美術館：2022年10月8日～11月27日）

童基《桃源図》（京都）

特別展「桃源郷通行許可証」（埼玉県立近代美術館：2022年10月22日～2023年1月29日）

龔賢《山水長巻》（京都）

特別企画展「明清の美—15～20世紀中国の美術—」（大和文華館：2022年11月18日～12月25日）

2022年度外部機関協力・広報

1. 職員による外部講演

小南一郎

8月14日 大和文華館講演「中国古代の動物造形 — その多様性と変容」

実方葉子

3月27日 京都国立近代美術館シンポジウム『「サロン！京と大阪の絵画」— 継承か断絶か？』
口頭発表およびパネルディスカッション

10月17日 佛教大学公開講座【46_ 京都新聞総合研究所提携講座「アートサロン」
①日本画家・木鳥櫻谷の旅と山水画】ハイフレックス（対面、オンライン両面講義）

山本 堯

4月24日 考古学研究会第68回総会・研究集会「殷周青銅器における伝世・復古とその史的意義」

2. 外部機関への協力：大学への出講

実方葉子

京都芸術大学 通信教育課程 書画コース特別講義「住友コレクション—中国絵画の個性派を見る」2022年8月20日（土）オンライン

野地耕一郎

成城大学 博物館実習（美術史） 2022年4月～2023年3月

学習院大学 哲学科「美術史講義」 2022年9月～2023年3月

3. 近隣美術館・施設との連携

（京都）

- ・「旅スル絵画」展と京都国立近代美術館「サロン！展」で連携割引を実施
- ・祇園祭鶏鉾下水引完成披露会見を講堂で開催（鶏鉾保存会に協力、7月4日）
- ・木鳥櫻谷山水障壁画を所有する南禅寺塔頭「南陽院」を「木鳥櫻谷—山水夢中—」の館外会場と位置づけ限定特別公開を企画、実施
- ・木鳥櫻谷旧邸「櫻谷文庫」（京都市指定文化財）特別公開と連携しライブエグザム主導で「三館夢中プレミアムチケット」を販売、ならびに宮脇賣扇庵天井画制作120周年特別企画「木鳥櫻谷の扇展」とも連携し京都新聞主導で「櫻谷三昧ぐるっとアート連携チケット」を販売
- ・野村美術館と「京都東山 美術館さんぽ」を共催、秋季展相互広報及び相互割引を実施

(東京)

- ・「ぐるっとバス 2022」再加盟
- ・「港区ミュージアムネットワーク」継続
- ・「港区いきいきミュージアムめぐり」見学会受入 (6/8「光陰礼讃」展)
- ・港区立麻布小学校 見学会受入 (6/22「光陰礼讃」展・6年生)
- ・ARK Hills Music Week 2022 参加 (10/6 ミュージアムコンサート)。
- ・デジタルスタンプラリー MusicWalk! 参加
- ・港区ミュージアムネットワーク「ミナコレスタンプラリー」参加 (12/1-12/24)

4. 広報活動

・京都：新聞、テレビ等を通じた広報

「旅スル絵画－住友コレクションの文人画」展 (主催 京都新聞)

- 2月26日 京都新聞朝刊社告
- 3月18日 京都新聞夕刊社告
- 3月23日 京都新聞特集紙全10段カラー
- 3月25日 京都新聞夕刊くらしインフォ
- 3月28日 京都新聞朝刊開幕記事・「きらっと」5月号
- 4月1日 産経新聞夕刊
- 4月12日 朝日新聞朝刊「美の履歴書」
- 4月13日 京都新聞朝刊広告全5段カラー
京都新聞タブロイド Irumiru「トマト倶楽部のページ」
- 4月20日 美術新聞

「モンゴル紀年漆器」展示

- 4月8日 京都新聞朝刊「ソフィア」大谷育恵氏インタビュー
- 3月21日 京都新聞朝刊情報ワイド
- 5月1日 京都新聞朝刊情報ワイド (文人画展とともに・全10段カラー)

「漆－東洋の美を彩る素材」展 (主催 京都新聞)

- 4月27日 京都新聞朝刊社告
- 5月23日 京都新聞情報ワイド
- 5月24日 京都新聞朝刊特集紙全10段カラー
- 5月27日 京都新聞夕刊
- 5月29日 京都新聞朝刊開幕記事
- 6月5日 KBS 京都放送「京都新聞ニュース」
- 6月6日 京都新聞朝刊
- 6月16日 毎日新聞朝刊
- 6月17日 産経新聞夕刊
- 6月19日 京都新聞朝刊情報ワイド (特集・全10段カラー)
- 6月21日 京都新聞朝刊広告全5段カラー
- 7月1日 京都新聞朝刊 情報ワイド／朝日友の会「アサヒメイト」7月号
共同通信関西アートウォーク、日本鑄造工学会「鑄造 Online2022」ほか

特別展「生誕150年記念 板谷波山の陶芸－近代陶芸の巨匠、その麗しき作品と生涯」展

(主催 日本経済新聞社・京都新聞)

- 8月2日 読売新聞
- 8月3日 京都新聞朝刊社告

- 8月13日 奈良新聞
 - 8月28日 京都民報（10月2日に特集）
 - 8月29日 日本経済新朝刊社告
 - 8月30日 京都新聞朝刊特集紙全10段カラー
 - 9月2日 京都新聞タブロイド Irumiru、夕刊インフォ
 - 9月3日 KBS 京都放送「京都新聞ニュース」
 - 9月4日 京都新聞朝刊開幕記事
 - 9月7日 産経新聞朝刊広告出稿 北河内版（モノクロ、9月13日に再掲）
 - 9月8日 京都新聞朝刊広告全5段カラー
 - 9月10日 朝日放送「ANN ニュース」
 - 9月11日 産経新聞朝刊広告出稿 北摂版（モノクロ）
 - 9月11日 日本経済新夕刊大阪本社版広告出稿（9月26日に再掲）
 - 9月16日 産経新聞朝刊広告出稿 北河内版（カラー）
 - 9月19日 日本経済新朝刊アートライフ
 - 9月30日 日本経済新朝刊、産経新聞夕刊
 - 10月2日 京都新聞朝刊情報ワイド（特集・全10段カラー）
- 小学館「和楽」8・9月号 原寸美術館、生活の友社「アートコレクターズ」9月号ほか

特別展「木島櫻谷ー山水夢中ー」展

（主催 公益財団法人櫻谷文庫・BSフジ・ライブエグザム・京都新聞）

- 1月4日 京都新聞朝刊「2022年の本社主催事業」
 - 10月5日 京都新聞朝刊社告
 - 10月28日 京都新聞朝刊特集紙全10段カラー、夕刊社告
 - 11月3日 KBS 京都放送「京都新聞ニュース」
 - 11月3日 産経新聞朝刊広告出稿 北摂版・北河内版（カラー）
 - 11月4日 京都新聞朝刊開幕記事・タブロイド Irumiru・アートサロンレポート・夕刊インフォ
 - 11月9日 NHK 京都放送「京いちにち」
 - 11月11日 日本経済新聞夕刊
 - 11月18日 京都新聞朝刊広告全5段カラー
 - 11月24日 ラジオα-STATION「モーニングスプライト」実方出演
 - 11月26日 京都新聞朝刊美術欄、毎日新聞夕刊
 - 12月1日 読売新聞夕刊、京都民報
 - 12月4日 日経STYLE「美の粋」全10段カラー
 - 12月5日 京都新聞朝刊情報ワイド
- 雑誌広告出稿「週刊エコノミスト」裏表紙

南陽院特別公開（ライブエグザム公開事業（櫻谷展主催））

- 9月7日 京都新聞朝刊一面
 - 9月7日 毎日放送、NHK 京都放送（ともに事前報道説明会）
 - 11月12日 BSフジ特別番組「百年の眠りからさめた櫻谷「理想郷」の美」
 - 11月27日 京都新聞朝刊情報ワイド（特集・全10段カラー）
- 読売新聞ウェブ「美術展ナビ」（9/7速報、9/28詳細レポート）

その他

- プラネットライツ「時空旅人」Vol.69
- JR東海「そうだ 京都、行こう。」インスタグラム建築紹介
- 「ぶらぶら美術・博物館 別冊 京都スペシャル」

・東京：新聞、テレビ等を通じての広報

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅰ

「日本画トライアングル 画家たちの大阪・京都・東京」（主催 日本経済新聞社）

3月11日 東洋経済日報

3月13日 陸奥新報

3月19日 日本経済新聞夕刊広告出稿

4月4日 聖教新聞

4月6日 東京新聞

4月10日 NHKEテレ「日曜美術館アートシーン」（再放送4月17日）

4月15日 東京新聞広告出稿（4月19日に再掲）

4月26日 朝日新聞夕刊

共同通信イベント情報配信

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅱ

「光陰礼讃 ―モネからはじまる住友洋画コレクション」（主催 日本経済新聞社）

4月29日 東洋経済日報

5月12日 中文導報

5月20日 毎日新聞

5月21日 日本経済新聞夕刊広告出稿

5月22日 陸奥新報

5月22日 読売新聞広告出稿

6月3日 産経新聞

6月28日 朝日新聞

7月8日 東京MX TV わたしの芸術劇場（再放送7月10日）

7月19日 NHKEテレ「キュレーターバトル！！」（再放送7月25日）

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅲ

「古美術逍遙 ―東洋へのまなざし」（主催 日本経済新聞社）

9月4日 陸奥新報

9月5日 日本教育新聞 / 電子版

9月10日 日本経済新聞夕刊広告出稿

9月11日 しんぶん赤旗日曜版

9月30日 産経新聞

10月9日 NHKEテレ「日曜美術館アートシーン」（再放送10月16日）

特別展「生誕150年記念 板谷波山の陶芸―近代陶芸の巨匠、その麗しき作品と生涯」展

（主催 日本経済新聞社）

4月28日 茨城新聞

6月5日 日本経済新聞

6月12日 日本経済新聞

8月6日 読売新聞

10月25日 共同通信社記事配信

10月28日 東洋経済日報

10月30日 産経新聞広告出稿

11月5日 日本経済新聞夕刊広告出稿

11月6日 陸奥新報

11月19日 東京新聞

- 11月20日 しんぶん赤旗日曜版
- 11月25日 産経新聞広告出稿
- 12月1日 共同通信社記事配信（東京ウォッチ）
- 12月3日 朝日新聞広告出稿

その他

- 1月9日 日本経済新聞（The Style：VR広告出稿）
- 3月8日 朝日新聞（首都圏版「ロゴ散歩」）
- 4月20日 公明新聞（カフェ紹介）
- 6月3日 日刊工業新聞「ミュージアム探訪」
- 6月24日 毎日新聞首都圏版

・泉屋博古館東京リニューアルオープンに向けた広報活動

新春プレオープンでの記者内覧会、VRアプリでのコンテンツ配信および連動した新聞広告等を活用し、3月のグランドオープンに向けて事前告知を行った。

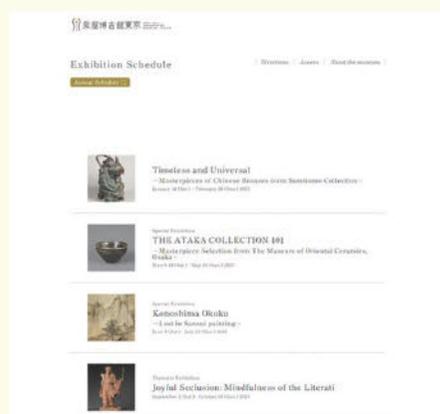
・ビジュアル・アイデンティティの展開（VI）の展開

2020-21年に構築したビジュアル・アイデンティティ（VI）の使用を2022年より開始した。京都・東京の共通パンフレットを制作したほか、東京では封筒・ショッパー等のアプリケーション類に展開し活用している。

・公式ウェブサイトの更新

2021年に刷新したウェブサイトに加え、英文ページを追加。東京の2023年開催展覧会予定および基本情報の英語版ページを作成、2022年12月に公開を開始した。

京都の英文ページは2023年初頭に作成および公開予定。



新公式ウェブサイト 英文トップページ（PC）

・SNSを活用した広報活動

京都 フェイスブック投稿（展覧会・作品・イベント紹介等）91回
 ツイッター（展覧会・作品紹介、館近況報告等）847回
 インスタグラム（展覧会・作品・イベント紹介等）95回

東京 フェイスブック投稿（展覧会・作品紹介等）136回
 ツイッター（展覧会・作品・イベント紹介等）339回
 インスタグラム（展覧会・作品紹介等）137回

当館で活動するボランティア



研修の様子

青銅器解説ボランティアは2021年から継続している新人研修を4月2日・16日にて全12回修了とし、9名の解説員が誕生した。また技能維持のためのフォローアップ研修を8月24日に行った。研修時に案内デスクを設けるなど来館者にボランティア側から声がけしない感染症対策を周知し、新型コロナウイルス感染症対策と

して2020年度より休止していた青銅器解説ボランティアを秋季展「生誕150周年記念 板谷波山の陶芸」より再開した。ガイド再開にあたり来館者の反応は良好で、新人7名・継続17名の合計24名が活動を行った。

また監視ボランティアとして「虹の会」および「京都市文化市民ボランティア」より会期毎にボランティアを募り、一展覧会あたり60余名が活動を行っている。

施設への対応

・泉屋博古館（京都）の改修工事検討

築50年を経た青銅器館をはじめとする建物・設備について劣化診断調査の結果を踏まえ、今後30年間を見据えた施設改修の基本計画を策定し一部着手した。今後基本設計業務に進む（2,200千円）。

学識役員懇談会

当館では本年、より充実した美術館活動展開のため、学識理事・評議員との懇談会を2回（6月20日泉屋博古館、11月17日泉屋博古館東京）開催した。館員とのフリートーク形式で、開催中の展覧会の内容を中心に、専門的な視点から当館へのご意見、ご助言など承ることができた。この懇談会は、近年コロナウイルス感染症拡大防止の観点から休会していた博物館評価委員会をより実質的な内容で展開するものとして、今後も継続する予定。

泉屋博古館設立の目的

当館は、住友家の収集にかかる古代青銅器を中心とする国宝、重要文化財等の美術工芸品および当館が取得した文化財の保存および公開、並びにこれらに関する調査研究を行い、学術研究の発展を図り、もって我が国の文化の向上と文化財の保護に寄与することを目的としております。

泉屋博古館の事業

当館は、上記目的を達成するため、次の事業を行います。

- (1) 美術工芸品の収集、保存および公開
- (2) 美術工芸品に関する調査研究、紀要、解説書、図録などの発行
- (3) 美術工芸品に関する研究会、講演会等の開催
- (4) 美術館の設置、運営
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

賛助会員 2022年12月31日現在

特別法人会員

住友化学株式会社	住友重機械工業株式会社
株式会社三井住友銀行	日本製鉄株式会社
住友金属鉱山株式会社	住友商事株式会社
三井住友信託銀行株式会社	住友生命保険相互会社
株式会社住友倉庫	住友電気工業株式会社
三井住友海上火災保険株式会社	日本板硝子株式会社
日本電気株式会社	住友不動産株式会社
住友大阪セメント株式会社	三井住友建設株式会社
住友ベークライト株式会社	住友林業株式会社
住友ゴム工業株式会社	住友ファーマ株式会社

法人会員 (50音順)

株式会社関西C・I・C研究所	株式会社薬研社
ワケンホールディングス株式会社	

個人会員 (敬称略、50音順)

足立康庸	熊澤保夫	古賀邦正	服部重彦	藤見知愛子
松波弘之	武藤治太			

役員・評議員 2022年12月31日現在

理事長	奥 正 之	三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
常務理事	北 野 幸 広	住友成泉社長
理 事	遠 藤 信 博	日本電気特別顧問
	岡 村 秀 典	京都大学教授
	大久保 哲夫	三井住友トラスト・ホールディングス会長
	小野寺 研一	住友不動産会長
	熊 倉 功 夫	MIHO MUSEUM 館長
	家 守 伸 正	住友金属鉱山名誉顧問
	佐々木 丞平	京都国立博物館名誉館長
	住友 吉左衛門	住友財団理事長
	十 倉 雅 和	住友化学会長
	長 崎 巖	共立女子大学家政学部教授
	中 村 邦 晴	住友商事会長
	西 上 実	京都国立博物館名誉館員
	橋 本 雅 博	住友生命保険会長
	廣 川 守	泉屋博古館長
	松 本 正義	住友電気工業会長
監 事	磯野 與志嗣	税理士
	関 根 福 一	住友大阪セメント会長
	森 重 樹	日本板硝子社長
評 議 員	新 井 英 雄	三井住友建設会長
	池 田 育 嗣	住友ゴム工業会長
	市 川 晃	住友林業会長
	小 野 孝 則	住友倉庫社長
	柄 澤 康 喜	MS&AD ホールディングス会長
	下 村 真 司	住友重機械工業社長
	多 田 正 世	住友ファーマ特別顧問
	出 川 哲 朗	大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長
	友 野 宏	日本製鉄社友
	藤 原 一 彦	住友ベークライト社長
	馬 淵 明 子	前国立西洋美術館長

■ 評議員 下谷政弘氏には2022年11月ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

法人概要

貸借対照表

2022年12月31日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	59,645,080	71,817,028	-12,171,948
棚卸資産	15,617,258	9,717,290	5,899,968
仮払金	200,000	0	200,000
前払金	3,511,733	3,265,714	246,019
前払費用	1,866,732	654,804	1,211,928
立替金	58,393	10,303	48,090
未収金	1,727,669	6,440,462	-4,712,793
流動資産合計	82,626,865	91,905,601	-9,278,736
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
美術品	6,429,608,720	6,419,958,720	9,650,000
土地	2,882,732,000	2,882,732,000	0
投資有価証券	2,154,759,700	2,429,279,200	-274,519,500
基本財産合計	11,467,100,420	11,731,969,920	-264,869,500
(2) 特定資産			
営繕積立資産	7,513,199	7,513,199	0
基本財産購入積立資産	14,773,807	14,773,807	0
保存公開事業積立資産	3,002,700	3,002,700	0
調査研究事業積立資産	20,431,000	20,431,000	0
株式	495,011,200	188,551,500	306,459,700
株式取得資金	53,731,157	73,221,817	-19,490,660
構築物等	468,343	500,095	-31,752
特定資産合計	594,931,406	307,994,118	286,937,288
(3) その他固定資産			
建物	1,289,772,431	1,347,151,708	-57,379,277
その他	244,636,241	266,065,433	-21,429,192
長期前払費用	3,266,785	0	3,266,785
商標権仮勘定	0	2,112,000	-2,112,000
その他固定資産合計	1,537,675,457	1,615,329,141	-77,653,684
固定資産合計	13,599,707,283	13,655,293,179	-55,585,896
資産合計	13,682,334,148	13,747,198,780	-64,864,632
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	20,249,424	20,367,333	-117,909
預り金	3,877,546	1,829,482	2,048,064
前受金	0	55,000	-55,000
流動負債合計	24,126,970	22,251,815	1,875,155
2. 固定負債			
敷金	960,000	960,000	0
その他固定負債	25,046,654	24,798,667	247,987
固定負債合計	26,006,654	25,758,667	247,987
負債合計	50,133,624	48,010,482	2,123,142
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本財産 美術品	6,425,078,120	6,416,028,120	9,050,000
特定資産 構築物等	468,343	500,095	-31,752
受取補助金	910,000	952,000	-42,000
指定正味財産合計	6,426,456,463	6,417,480,215	8,976,248
(うち基本財産への充当額)	(6,425,078,120)	(6,416,028,120)	(9,050,000)
(うち特定資産への充当額)	(468,343)	(500,095)	(-31,752)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	7,205,744,061	7,281,708,083	-75,964,022
(うち基本財産への充当額)	(5,042,022,300)	(5,315,941,800)	(-273,919,500)
(うち特定資産への充当額)	(594,463,063)	(307,494,023)	(286,969,040)
正味財産合計	13,632,200,524	13,699,188,298	-66,987,774
負債及び正味財産合計	13,682,334,148	13,747,198,780	-64,864,632

法人概要

正味財産増減計算書

2022年1月1日から2022年12月31日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	44,885,171	51,164,066	-6,278,895	
特定資産運用益	22,802,467	8,504,584	14,297,883	
入場料	38,724,627	9,109,030	29,615,597	
事業収益	24,400,881	11,571,521	12,829,360	
受取補助金等	補助金等	1,848,134	6,581,894	-4,733,760
受取寄付金	寄付金	162,760,000	166,260,000	-3,500,000
		983,752	790,085	193,667
雑収益	45,937,807	43,344,488	2,593,319	
経常収益計	342,342,839	297,325,668	45,017,171	
(2) 経常費用				
事業費				
展覧会費	56,824,385	50,381,503	6,442,882	
美術品修繕費	2,086,060	4,130,882	-2,044,822	
調査研究費	4,276,581	5,638,634	-1,362,053	
広告宣伝費	17,869,004	3,907,816	13,961,188	
給与費	85,277,736	79,292,279	5,985,457	
雑給	11,463,508	3,947,114	7,516,394	
旅費交通費	6,898,550	4,715,290	2,183,260	
通信運搬費	1,298,532	989,938	308,594	
光熱水道費	13,362,293	8,203,119	5,159,174	
消耗品費	5,411,085	12,172,444	-6,761,359	
保守費	22,096,701	17,418,843	4,677,858	
賃借料	18,121,208	12,329,398	5,791,810	
委託費	7,648,014	0	7,648,014	
東京館増改築関連費用	0	25,000,010	-25,000,010	
租税公課	1,425,285	0	1,425,285	
雑費	1,467,094	452,053	1,015,041	
特定資産減価償却費	31,752	790,085	-758,333	
その他固定資産減価償却費	83,129,549	68,580,275	14,549,274	
事業費計	338,687,337	297,949,683	40,737,654	
管理費				
給与費	42,927,334	39,988,426	2,938,908	
旅費交通費	2,201,232	1,743,198	458,034	
通信運搬費	1,531,726	1,448,803	82,923	
光熱水道費	6,703,190	4,113,161	2,590,029	
消耗品費	1,250,791	3,378,878	-2,128,087	
保守費	10,306,915	7,722,756	2,584,159	
賃借料	10,650,737	14,616,294	-3,965,557	
委託費	7,294,377	10,935,057	-3,640,680	
東京館増改築関連費用	429,000	2,190,610	-1,761,610	
雑費	4,039,773	2,698,780	1,340,993	
その他固定資産減価償却費	6,437,729	4,750,993	1,686,736	
管理費計	93,772,804	93,586,956	185,848	
経常費用計	432,460,141	391,536,639	40,923,502	
評価損益等調整前当期経常増減額	-90,117,302	-94,210,971	4,093,669	
基本財産評価損益等	-74,519,500	-28,676,500	-45,843,000	
特定資産評価損益等	86,969,040	32,820,000	54,149,040	
評価損益等計	12,449,540	4,143,500	8,306,040	
当期経常増減額	-77,667,762	-90,067,471	12,399,709	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
その他固定資産受贈益	2,107,368	0	2,107,368	
指定正味財産からの振替額	0	3,448,226,176	-3,448,226,176	
経常外収益計	2,107,368	3,448,226,176	-3,446,118,808	
(2) 経常外費用				
その他固定資産除却損	95,348	97,205,016	-97,109,668	
過年度減価償却修正損	308,280	0	308,280	
経常外費用計	403,628	97,205,016	-96,801,388	
当期経常外増減額	1,703,740	3,351,021,160	-3,349,317,420	
当期一般正味財産増減額	-75,964,022	3,260,953,689	-3,336,917,711	
一般正味財産期首残高	7,281,708,083	4,020,754,394	3,260,953,689	
一般正味財産期末残高	7,205,744,061	7,281,708,083	-75,964,022	
II 指定正味財産増減の部				
固定資産受贈益	9,050,000	520,000	8,530,000	
受取補助金	910,000	952,000	-42,000	
一般正味財産への振替額	-983,752	-790,085	-193,667	
一般正味財産への振替額	0	-3,448,226,176	3,448,226,176	
当期指定正味財産増減額	8,976,248	-3,447,544,261	3,456,520,509	
指定正味財産期首残高	6,417,480,215	9,865,024,476	-3,447,544,261	
指定正味財産期末残高	6,426,456,463	6,417,480,215	8,976,248	
III 正味財産期末残高	13,632,200,524	13,699,188,298	-66,987,774	

泉屋博古館 蔵品紹介

第6回 近代日本画

ジャンルが多岐にわたる住友コレクションのなかで、最も生活空間のなかに深く入り込み、日常的に用いられた美術品のひとつに日本画があります。当館に伝わる日本画の多くは、邸宅を飾るために15代当主住友春翠とその子息たちを中心に明治から昭和戦前にかけて集められたもので、現在の所蔵品数は200件を超えています。

日本家屋に備え付けられた床の間には掛軸が必要とされ、また広い座敷には間仕切りとして屏風や衝立が重用されました。大正4(1915)年に落成した大阪天王寺の茶白山住友本邸には、奥向きを含めじつに10を超える床の間があり、それぞれが季節や来客によって掛け替えられていました。画題は季節の移ろいを寿ぐ花鳥画や、商家になじみやすい吉祥画が多く、またその表現も伝統に根差した守旧的なものが基調をなし、展覧会向けの革新的で、濃彩かつ巨大な作品よりも、収まりが良く端麗で床映えする作品が多く含まれます。これらはプライベートな空間で愛玩されるとともに、賓客をもてなす調度としての役割を担ったもので、実業界をリードした住友における公と私の「あわい」にあるコレクションともいえます。

一方で、大阪・京都・東京の三都でそれぞれに活躍した画家の作品から所蔵品が構成されている点は、住友の日本画コレクションを読み解くもうひとつの柱です。政治や経済の中心地であるこれらの都市では、近代以前からそれぞれの風土で育まれた独自の美術文化が形成されました。その土壌から生まれた各都市の日本画を擁する住友コレクションは、多様性に満ち、豊かで魅力的な美の世界を築いています。このように三都の差異に目を向ければ、確かにそれぞれの都市の美意識を認めることができますが、他方でひとつのコレクションとして眺めれば、そこには作品に通底する美意識—清淡で典雅な趣といったコレクターの好みが全体に響いていることに気が付きます。

住友の日本画コレクションは、現代の私たちが忘れてしまった過去の美意識や価値観を今に伝えてくれます。たしかに華美で刺激的な作品は魅力的ですが、時には静かで滋味深く、そっと寄り添ってくれるような日本画の世界に心を委ねてみてはいかがでしょうか。

(椎野晃史)



上：狩野芳崖《寿老人図》明治10年代前半 125.5 × 182.0 cm
 寿命を司る南極星（カノープス）の化身である寿老人を中心に、
 玄鹿、蝙蝠、鶴、松竹梅などの吉祥モチーフを墨色豊かに描いた
 大幅。長命を寿ぐ画題としてハレの場にふさわしい作品。



右：上島鳳山《十二月美人》のうち「四月 郭公」
 明治42（1909）年 136.2 × 55.2 cm

十二月の歳時と取り合わせた美人を描いた12幅のうちの1点。
 遊女は近世初期風俗画を参照しつつも、肉体の描写に破綻はない。
 密度が高く細緻な着物の描写に画家の高い力量がうかがえる。



望月玉泉《雪中蘆雁図》（左隻）明治41（1908）年 152.7 × 358.0 cm

「家の繁栄と安寧」を願う吉祥画題の蘆雁図は、玉泉が最も得意として評判を集めた。金彩により装飾的な効果を高めつつも蘆や雁を写実的に描き出し、さらに画面に自然な奥行を加えることで冬の凜とした大空間を描き出している。

2023年展覧会予定

泉屋博古館

光陰礼讃 - 近代日本最初の洋画コレクション	3月14日 - 5月21日
歌と物語の絵 - 雅やかなやまと絵の世界	6月10日 - 7月17日
泉屋ビエンナーレ 2023 Re-sonation 響きあう聲	9月9日 - 10月15日
特別展 表具の美 - ある表具師のものがたり (仮)	11月3日 - 12月10日
中国青銅器の時代 - 青銅器になった動物たち	上記開催期間

泉屋博古館東京

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展IV

不変／普遍の造形 住友コレクション中国青銅器名品選	1月14日 - 2月26日
特別展 大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選 101	3月18日 - 5月21日
特別展 木島櫻谷 - 山水夢中	6月3日 - 7月23日
楽しい隠遁生活 - 文人たちのマインドフルネス	9月2日 - 10月15日
特別展 日本画の棲み家	11月2日 - 12月17日